

壁面・開口部

基準

町家にみられる形態・意匠を活用する。

伝統的建物の壁面は、格子などによって細やかな凹凸が付加され、柔らかなリズム感のあるまちなみが形成されています。

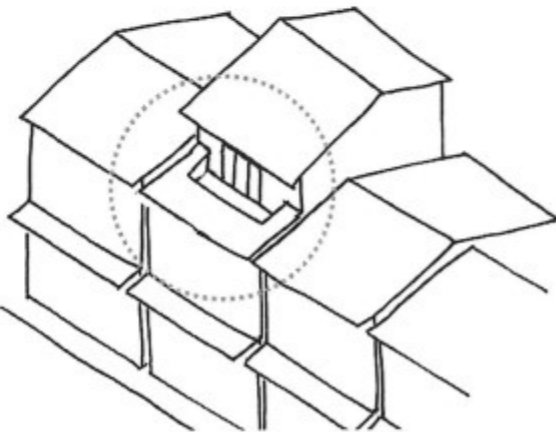
新しく建てる場合も、柱、壁、開口部は個々に考えず、大きな面を構成する要素としてとらえて全体をバランスよく配置し、デザインしましょう。

伝統的建物は2階壁面の横線や庇で水平線を強調し建物を低く見せる工夫がされています。また柱、塗壁、腰板、開口部をバランスよく配置しています。

新しく建てる場合、2階の高さを高くしたり、開口部を大きくとったり、バルコニーを設けたりするケースが考えられます。この場合でも開口部のデザインを工夫したり、バルコニーを建物の中に入れてこんで通りから見えにくくするなど、新しい生活様式と伝統的様式がなじむ方法はあります。



目隠しや防犯、通風、採光の役割を果たしながら、美しい意匠となっている格子などが、まちなみに豊かな表情を与えます。また壁面の線によりアクセントができ、開口部が分節化されます。



軒下空間

基準

1階部分に庇を設置し、軒下空間を確保する。
伝統的な土間仕上げ及びしつらいを心がける。

深い庇を設置することによって、まちの連続性を保ちます。軒下空間はまちなみを印象づける大切な空間です。伝統的なしつらいの意匠を応用したり、土間仕上げに気を配るなど、まちなみを演出する工夫を心掛けましょう。

(14頁「軒下」参照)



【軒下の土間部分】
土や石畳といった自然素材を、シンプルに構成しながら、鉢植えなどで演出がなされています。



【軒下の細やかなしつらい】
開口部の前にはやんわりと人を寄せつけないように、駒寄せや犬矢来といった柵を設け、これらもまた細やかなデザインにして、まちなみとの調和を図っています。



【一階の壁面の前に庇を設けて軒下を確保】
壁面や開口部を雨風や直射日光から守るとともに、人が雨をしのいだりコミュニケーションする空間として、またお祭りの時にはしめ縄を飾る場所として使われてきました。

塀・柵・門

基準

コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和した質の高いものとする。

道路に面する塀・柵・門は、まちなみにいろいろな表情を演出してくれます。伝統的なまちなみの雰囲気をも崩さないよう、周囲の景観との調和を図るように工夫しましょう。

(14頁「塀・門」参照)



近江八幡市の事例

車庫

基準

車庫の開口部は、伝統的様式の開口部の意匠を応用するなど、まちなみとの調和をはかる。スチールシャッターなどの使用は極力避け、デザインに配慮する。

車の利用が増えることによって、車庫の設置が増加しつつあり、今後も増加する事が考えられますが、まちなみの連続性を保つためには、何らかの工夫が必要です。

またやむを得ずスチールシャッターなどを使用する場合には、デザインや材質・色彩などに配慮し、伝統的まちなみとの調和を図る工夫が必要です。



近江八幡市の事例